

申4号「駅体制の見直しについて」団体交渉開催 その①

～いわき駅輸送体制見直し、原ノ町駅お客さまサポートコールシステム導入、友部駅・上菅谷駅・赤塚駅・結城駅みどりの窓口営業終了～

1. 今施策の目的を明らかにし、安全で働きやすい職場環境を構築すること。

確認事項 安全第一の施策とし、社員の意見を聞きながら働きやすい環境を整備する。

組合：施策の目的を明らかにすること。

会社：「変革2027」の実現に向け、効率的な業務執行体制を構築し生産性の向上を図り、経営体質の抜本的強化に取り組むため駅体制の見直しを実施する。

組合：安全で働きやすい職場環境を構築すること。

会社：安全はトッププライオリティである。社員の意見を聞きながら、環境を整備する。

2. いわき統括センター(いわき駅)輸送体制の見直しに伴い、変更となる業務や業務執行体制について明らかにすること。

確認事項 業務に不安がないよう、教育や訓練を行う。

組合：いわき駅輸送体制の見直し内容を示すこと。

会社：輸送体制について、現行は信号操車 A 番及び B 番と輸送 C 番の3徹体制である。輸送 C 番の業務は構内巡回や車内貫通作業等を行っている。副長や営業社員、信号操車 A 番等に振り分けることにより、今後は日勤とする。

組合：車内貫通業務について、教育や訓練等を行うこと。

会社：副長は現在も実施しているが、営業社員は2019年以降実施していない。今後、教育を行う考えである。

組合：乗務員による車内貫通業務について、考え方を示すこと。

会社：乗務員の定期行路にある「駅業務等」では実施しないが、今後輸送業務に従事する場合もある。作業ダイヤに従事する場合、OJT 等で教育を行う考えである。

3. 原ノ町統括センター(原ノ町駅)お客さまサポートコールシステム導入時間帯や業務執行体制について明らかにすること。

確認事項 臨時窓口は指定席券売機等で発券出来ない時、臨機応変に対応している。

今後も定期券の多売期やイベント等でも臨時窓口を開ける考えである。

組合：原ノ町駅にお客さまサポートコールシステムを導入する経緯を示すこと。

会社：昨年、原ノ町駅は臨時窓口化を行い、柔軟な働き方が実現した。今回、お客さまサポートコールシステムを導入することで、より柔軟な働き方を実現する考えである。

組合：お客さまサポートコールシステムの稼働時間帯を示すこと。

会社：稼働時間帯は受託会社と調整中だが、1日に4回各1時間ずつ稼働する予定である。この時間帯に休憩や券売機やマルス等の締切を行う考えである。

組合：原ノ町駅の業務執行体制を示すこと。

会社：お客さまサポートコールシステムを稼働することで、一般は1徹1日勤体制を1徹体制とする。

組合：原ノ町駅臨時窓口化の現状を示すこと。

会社：毎日2～3名のお客さまが利用している。クレジットカードの暗証番号がわからないお客さまや話せる指定席券売機で対応できない乗車券類の発売等である。今後は定期券の多売期やイベント等でも臨時窓口を開ける考えである。

その②へ続く